

AV ニュース エクスプレス

「第14回すかがわ国際短編映画祭」
「第9回広島国際アニメーションフェスティバル」
（財）コンピュータ教育開発センター「Eスクエア・プロジェクト成果発表会」
NTT東日本「小・中・高校向け教育用コンテンツ検索サイト」(まっち)の無償提供を開始
NTTデータ「映像業界eマーケットプレイス」の実証実験を開始
日本教育メディア学会研究会「IT社会に拓く新しいコミュニケーションと新しい学習」
日本教育工学会「冬の合宿研究会」
平成13年度「文化庁メディア芸術祭」受賞作品展
「2001年度キネマ旬報ベスト・テン」
「第56回毎日映画コンクール」受賞作品
岡山県教育センター「所員研究成果発表会」

AV 情報

「第14回すかがわ国際短編映画祭」

広く映像文化に対する理解を深めるとともに、地方文化の振興と国際文化交流を推進することを目的に標記映画祭が今年も福島県須賀川市において開催される。

< 期日 > 平成14年5月10日(金)～12日(日)の3日間

< 会場 > 須賀川市文化センター

< 主催 > すかがわ国際短編映画祭実行委員会、須賀川市、須賀川市教育委員会
< 入場料 > 1日券：大人500円 / 高校生300円
3日券：大人800円 / 高校生500円

< 集集予定人員 > 2,000人

< 問い合わせ > すかがわ国際短編映画祭実行委員会 電話0248-75-1111(内線444)

「第9回広島国際アニメーションフェスティバル」

このフェスティバルは、広島市、(財)広島市文化財団及び国際アニメーションフィルム協会日本支部、並びにこの事業に特別に関係のある団体で組織する非営利の組織委員会が主催運営するもので、国境や言語を越えた人類共通のメディアであるアニメーション芸術を通じて人間相互の理解を深めることを目的に開催される。

< 開催日 > 平成14年8月22日～26日
< 作品応募期間 > 平成14年2月1日～4月10日
< 問い合わせ > 広島国際アニメーションフェスティバル事務局 電話082-245-0245

(財)コンピュータ教育開発センター「Eスクエア・プロジェクト成果発表会」

(財)コンピュータ教育開発

センターは文部科学省と経済産業省の協力のもとに、学校におけるインターネット活用の促進を目的として実施している「Eスクエア・プロジェクト」の成果発表会を開催する。

今年度は、平成14年度からの新学習指導要領の実施をうけ、インターネット活用の実践を通じて得られたノウハウや成果の共有と、これを広く教育界に普及させることをテーマとしている。

< 日時 > 平成14年3月8日(金)～9日(土)
< 会場 > 東京ファッションタウンビル(東京：臨海副都心 国際展示場正門駅前)
< 参加費 > 無料
< 問い合わせ > Eスクエア・プロジェクト事務局 電話03-3593-1804
<http://www.edu.ipa.go.jp/E-square/>

NTT東日本「小・中・高校向け教育用コンテンツ検索サ

ブックレビュー



「メディア・リテラシーの現在と未来」

鈴木みどり編 世界思想社 2001年
10月刊 A5判 267頁 2,300円
(税別)

メディア・リテラシーの分野では、最近かなりの数の書物が刊行されており、そのいくつかは本欄でも紹介されている。

本書もその最も新しい文献として、ぜひ紹介したい作品である。

内容は国内外におけるメディア・リテラシーの動向を掘り下げて紹介し、何が問題で、何をめざすか、を示唆しようとしている。

「理論」では、編者による「日本におけるメディア・リテラシーの展開」に続き、マスターマン（イギリス）、ジャッキー・ドローネー（フランス）の論稿（前者は彼の代表的原著作の抄訳、後者は日本での講演原稿の翻訳）が収録されている。

とくに編者による論稿は、取

りあげられている研究会や会議のほとんどすべてに編者自身が出席しており、それらに関連したメディア・リテラシー普及の運動の中心的役割を果たしてきているだけに、明確で確かな跡づけが示されていて、この運動の「現在」を知るのに適切なテキストである。そして、それが外国における理論的枠組みを述べた他の2編の論稿で支えられている。

マスターマンの文章は、いわば「古典的」な論文の中心部分を取り上げたものであり、他の1編は比較の見おとされがちなフランスの思潮を紹介する貴重な論稿である。

「学びの実践」「展望」も内容の濃い論稿で、同じ編者の前書とともにぜひ一読を薦めたい。（高桑 康雄）

イト」(まっち)の無償提供を開始

NTT東日本はこのほど、世界的な標準規格に基づいた小・中・高校向け教育用コンテンツ検索サイト(まっち)を開発し、昨年12月18日から、教育目的の利用に限り、無償提供を開始した。

検索可能なコンテンツは、15秒から1分30秒程度のビデオクリップなどで、その数は今年度中に1万数千件程度まで整備される。検索画面は、小学生用、中学・高校生用、教師用があり、それぞれ利用者の特性などを考慮して、検索しやすいシステムになっている。

<http://www.match.wnn.or.jp>

NTTデータ「映像業界eマーケットプレイス」の実証実験を開始

(株)NTTデータは、映像コ

ンテンツ流通事業における新たなビジネスモデルの検証を目的に、「映像業界eマーケットプレイス」の実証実験を行う。

「映像業界eマーケットプレイス」とは、映像業界のさまざまな企業間取引をインターネット上で行う“場(マーケットプレイス)”を指し、この構築を図ることにより、映像制作業界の活性化に寄与することを目指している。

この実証実験では、映像制作会社間の従来の商慣行を超えた取引の実現と、映像コンテンツの販売機会の増加や制作工程の効率化、制作費用の削減を可能とする映像コンテンツ流通の新たなビジネスモデルの検証と必要の調査を行うこととしており、実験への参加企業・団体を広く募集している。参加にあたっては、一般的なインターネット接

続環境があれば特殊な環境は必要ない。

<問い合わせ先> 社会情報システム事業部第二企画開発部 電話03-03224-3155

学会情報

日本教育メディア学会研究会「IT社会に拓く新しいコミュニケーションと新しい学習」

日本教育メディア学会では、IT社会の中で、子どもたちの学びのために、どのような新しいコミュニケーション、新しい学習を拓くことができるかを模索することを目的に、標記研究会を開催する。

<日時> 平成14年3月17日(日) 午後1時~4時(予定)
<会場> 広島市立大学情報科学部別館交流ラウンジ <内容> 研究発表・パネルディスカッション

ブックレビュー



「地域博物館への提言
 討論・地域文化と博物館」
 川添登監修・日本展示学会展示学講
 座実行委員会編 ぎょうせい 2001
 年5月刊 A5判 252頁 2,667円
 (税別)

日本では現在でも一年間に200以上の新しい博物館がつくられていて、それらの博物館の展示製作にあたる展示業者の技術は世界水準にあると言われる。たしかに、ここ10年間に日本全国には多くの地域博物館がつくられ、すばらしい展示を私たちに提供してくれている。

評者である私は博物館の学芸員であるが、展示学というものは、博物館の標本や情報を来館者に見せるための、単なる展示に関する技術であると思っていた。しかし、この本を読んで驚いたことは、博物館の展示を実際につくる方々が、博物館に深くかわり、単に展示だけを製作していたのではなく、博物館そのものの意義や運営に関するデザインまで思いをめぐらしていたことであった。

「博物館の目的の第一は学術研究にある」とか、「博物館は施設でなく、機関である」、「博物館はどういう人のために、どういことを、どのように、どのような人がサービスしなくてはならない機関かを基本構想の段階で明確にすべきである」など、展示をする以前に本来博物館をつくる側、運営する側、または博物館を必要とする側が考えなくてはならない基本的問題が、この本では具体的事例とともに議論されている。その意味で、博物館の展示は博物館の目的や機能と切り離して考えられないものであることを、強く再認識させられたと同時に、博物館をつくる人や運営する人、そして利用する人たちに、この本を是非ともお薦めしたい。

(柴 正博)

コンクール情報

平成13年度「文化庁メディア芸術祭」受賞作品展

文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁、CG-ARTS協会、日本経済新聞社)主催による、標記コンクール受賞作品の作品展が開催される。同時にシンポジウム並びに歴代受賞者展も開催される。

<会期>平成14年3月1日(金)~10日(日) 午前10時~午後6時(木・金は午後8時まで)
 <会場>東京都写真美術館 <入場料>無料 <問い合わせ>CG-ARTS協会内「文化庁メディア芸術祭事務局」 電話03-3535-3501

「2001年度キネマ旬報ベスト・テン」

キネマ旬報社が毎年実施している標記ベスト・テンが発表さ

れた。このうち文化映画の部門では日本映画新社・日映企画製作の「日本の近代土木を築いた人びと」が第1位に選出された。

なお、同作品は日本視聴覚教育協会主催2001年優秀映像教材選奨においても「最優秀作品賞(文部科学大臣賞)」を受賞している。第1位映画鑑賞会と表彰式は平成14年2月10日(日)東京・有楽町の朝日ホールにおいて開催される。

「第56回毎日映画コンクール」受賞作品

毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社主催による標記コンクールの主な受賞作品が決定した。<日本映画大賞/アニメーション映画賞>

「千と千尋の神隠し」(スタジオジブリ事業本部他製作)

<記録文化映画賞賞>(短編)

「石を積む 石垣と日本人」

ョン(コーディネータ:川本佳代) <問い合わせ>川本佳代(広島市立大学) 電話082-830-1562(研究室直通)

日本教育工学会「冬の合宿研究会」

日本教育工学会は、実践と教育を結ぶ上での工夫と問題点に迫る学びの場を創造すべく、標記研究会を開催する。

<日時>平成14年3月16日(土)午後1時~17日(日)正午
 <会場>サンピア浜松(厚生年金施設) 静岡県浜松市東伊場2-14-1 <対象>教育工学の方法論に関心のある方、教育関係者等(学会員以外も参加可) <参加費>13,000円(予定)資料代、宿泊ならびに懇親会費用を含む <詳細>電話03-5251-2133 <http://edunts.shinshu-u.ac.jp/jet/winter.html>

エル・ネット 2月放送予定

各番組は、エル・ネットを利用し、全国180か所の受信施設（公民館・図書館・学校・生涯学習センターなど）に放送されている。

子ども放送局 第2・4土曜日
10:30～15:30 1ch

9日「スポーツ」
夢スタジオ1030「テニス大好き！」/子どもとしゃかん「ゆきの本」/ミクロの小宇宙「カイコの不思議」/輝く子どもたち「特別番組」～うちら元気な岡山っ子じゃけん～/チャレンジ教室・科学「身近なモノで科学を体験！野菜ロケット発射！」
23日「健康」
夢スタジオ1030「健康」～

健康はおいしいごはんから！～/輝く子どもたち「香川から世界へ！わたしたちはミュージカルスター！」～香川・津田町～/子どもとしゃかん「スパイの本」/ミクロの小宇宙「水棲微生物」/わくわく恐竜ランド/チャレンジ教室・グループ遊び「昔遊びのぬくもりを感じよう」

生中継の番組では、質問・意見をファックス、電子メールで募集中！

FAX 03-5790-8154

<http://www.kodomo.nyc.go.jp>

問い合わせ

国立オリンピック記念青少年総合センター 子ども放送局係

電話 03-3467-1600

家庭教育
14:00～14:30 2ch

6・13日（13日は6日の再放送）

「男女共同参画 はじめの一

歩を家庭から」

問い合わせ

国立女性教育会館情報交流課

電話 0493-62-6711内2230

科学史学校 第1日曜日
14:00～16:00 1ch

3・7日「実験の研究と学習の順序 鉄と硫黄の化合実験研究の歴史から」

三井澄雄（大正大学）

問い合わせ

国立科学博物館

電話 03-5814-9874

各地からの放送
2ch

5日 13:30～15:30

「とやま教育の今」第2回

平成13年度富山県総合教育センター調査研究発表会（その1）

問い合わせ

富山県（総合教育センター）

電話 076-444-6168

（文化工房製作）

各地の情報

岡山県教育センター「所員研究成果発表会」

岡山県教育センターは、（財）松下視聴覚教育研究財団の平成13年度研究開発助成を受け、エル・ネット（教育情報衛星通信ネットワーク）の活用研究を行ってきた。その研究成果の発表を下記の日程で行う。なお、その模様はエル・ネットで完全生中継される。

<日時>平成14年2月26日（火）

午前9：10～午後4：00

<内容>「岡山情報ハイウェイを利用した高等学校物理における学校間の共同研究」「エル・ネットを利用した教員研修

の在り方」など <場所>岡山県教育センター 岡山市古京町2-2-14 電話086-272-1205 <詳細> <http://www.edu-c.pref.okayama.jp/kenkyu/shoin/h13seika/index.html>

短 信

文部科学省学習情報政策課の異動

文部科学省の平成14年1月1日付の異動で、同課庶務係長米本善則氏は社会教育課庶務係長に就任、後任係長には社会教育課社会参加支援係長岩倉禎尚氏が就任した。

（社）映像文化製作者連盟がホームページを開設

このほど（社）映像文化製作者連盟は新たにホームペー

ジを開設した。連盟の事業活動ならびにトピックス、話題を提供するとともに、作品登録のデータベース化により、作品検索も可能となっている。 <http://www.eibunren.or.jp>

お詫び

本誌平成14年1月号15頁の「トピックス（ガヴリエル・サロモン教授講演会開催）」記事に下記のような誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

『テクノロジーと教育のラショナル』講演会開催日時

（誤）2002年2月2日（土）

午後1時～4時30分

（正）2002年2月10日（日）

午後2時45分～4時30分